

令和6年度 学校経営計画・学校評価

□4月4日提出

□10月3日提出

□3月14日提出

学校番号

28

高岡

高等学校

課程

定

高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	基本方針	①予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備
	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○今の自分を認め、成長させたいと思っている生徒。 ○高校生活で「付けたい力」を言うことができる生徒。		【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針)
スクール・ポリシー	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○自分を大切にし、他の人も大切に考えられるようになる。 ○目標をもち、自ら考え行動できるようになる。 ○協働して行動できるようになる。 ○地元に愛着をもつことができる。		○将来を見据えた学力、体力をつけ、感性を磨く。 ○他者と関わる活動を積極的に行う。 ○地域・社会に興味関心を持つ。

学校関係者評価		
【学力の向上】	評価	【 A 】
学校全体の雰囲気も良く、学べる環境ができている。現在の課題に応じた学習が実施されており、成績も評定平均4.5以上が14名中7名と成果が出ている。出席率が心配であったが、生徒全体の総欠課時数も一人当たりの欠課時数も減少しており、教育の成果が出ている。		
【社会性の育成】	評価	【 B 】
主権者教育、消費者教育、人権講話、性講話など社会で必要なことも学べているようで良いと思う。時間調整も必要かもしれないが、青年団など地域の若者と接する機会や一緒に地域に入る機会も作れると、より学びと交流が深まりそうである。		
【チーム学校】	評価	【 B 】
学校新聞「星空」などで、校長から生徒に向けたメッセージや日々の子どもたちの学校の様子など学校の思いや考え方、取組がよくわかるようになっている。一方で、地域の若者と接する機会など、地域との協力による学びの深まりにまで進めていない。		

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分

		育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
重点項目	学力の向上	★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)	○基礎的・基本的な知識及び技能の習得 ・年度末の欠点保持者を0とする ・漢字検定・ワープロ検定の合格者5名 ○将来のための勉強をしている生徒の増加 ・「将来の可能性を広げるために勉強をがんばっている」82%(1回目 82%)	・ICTを活用し、授業の振り返りを実施する ・タブレット等を活用し、授業外でも学習ができる環境をとどめる ・定期試験・資格試験で成果を出し、自分の学習成果が実感できようとする ・個人面談・保護者面談により、家庭との連携を取りながら学習支援をする ・総合的な探究の時間等を活用し、自分の将来を考える機会を設定し、学習意欲を喚起する	B	・ICTの任意研修に各自取り組み、ICTを活用した授業実践を進めている ・タブレットの貸出は準備できている ・1学期定期試験で、履修者の欠点保持者0名 ・学期末の第三者面談に加え、保護者との連携により、学習支援を進めている ・総合的な探究の時間や学校行事で、地域の人の講演や企業・学校訪問など、進路に関する意識の醸成と、将来のための学習意欲を高めるための活動を行った	A	・年度末欠点保持者0・漢字検定合格者2名 ・「将来の可能性を広げるために勉強をがんばっている」76.2% ・学校評価アンケートでも「学習の成果が上がっている」77%となっており、やや目標を下回っている。 ・学校メールや面談により、保護者と連携し、学習支援を続ける ・総合的な探究の時間を活用し、自分の将来についての具体的な目標をもてるようす
	社会性の育成	★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	・県オリジナルアンケート問18・25肯定的回答82%以上(1回目18 82%,問25 73%) ・学校評価アンケートにおいて、「4月当初に比べて、コミュニケーション能力が高まった」の質問への肯定的回答70%以上	・遠足・県体・総合的な探究の時間等をとおして、学年を越えた協調心を養う ・学校訪問や体験活動により、キャリア形成・進路に関する意識を醸成する	B	・全校交流行事・県体・総合的な探究の時間等をとおして、学年を越えた活動ができた ・学校訪問や体験活動により、キャリア形成・進路に関する意識を高めている	B	・県オリジナルアンケート肯定的回答問18 76.9%,問25 92.3% ・学校評価アンケートにおいて、「4月当初に比べて、コミュニケーション能力が高まった」の質問への肯定的回答69%以上ほぼ当初の目標を達成した。
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	○生徒の社会的自立・社会参画 ・「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答 50%(1回目 45%) ○地域・関係機関等の連携 ・地域・関係機関等との連携回数5回以上	・総合的な探究の時間を活用し、地域の人や企業の活動を理解し、地域と共に学ぶ人間を育成する	B	・総合的な探究の時間で、体験的な取り組みや地域の人や企業・学校の見学や講演会を設定し、地域と共に学ぶ人間育成に努めている。 ・警察署や消防署などの行政機関や専門学校や地域の方による体験講座により、地域理解とともに地域の中で何ができるかを考える機会を設けた。	B	・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答 61.5%で、当初の目標は上回ったものの、さらなる向上を目指したい。 ・地元の企業人や地域の企業・学校の協力を得て生徒のキャリア学習をすすめだが、目的の周知と振り返りが不十分であった。
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	・各教科において言語活動や情報活用能力を育成する場面を意識的に設定する回数9回 ・「総合的な探究の時間」で、各教科での学びを生かす活動9回	・各教科においてタブレットを活用した取り組みを進めているが、教員によって取り組みに差がある ・総合的な探究の時間の中で、各教科での学びを生かす場面を設定する	C	・各教科において、タブレットの活用を進めているが、依然として教員によって取り組みに差がある ・外部の方の講演や地域での学びを通して、教科での学びがどのように生かされているかを認識できるようにする	C	・各教科において、タブレットを活用した取組を進めているが、依然として教員によって取り組みに差がある ・「総合的な探究の時間」の中で各教科での学びを生かす場面設定ができなかった。

		取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化 ○三修制の充実 ○キャリア教育を通じた全員の進路実現 ○教育活動の広報	○地域での学びなどを取り入れたキャリア教育の充実 ・長期休業中に地域で学ぶ学習を取り入れたカリキュラムの充実 ・生徒の充実感の向上 ・LHの振り返り、「授業が楽しいと感じた」、「知識や技術が身についた」、「進路を考える参考となった」と回答する生徒が70%以上 ○情報発信 ・HP上の情報発信、学校新聞「星空」の毎月発行、学校メールを毎月家庭に送付	・地域で学ぶ学習のカリキュラム作成と実践 ・校内・校外で学年を越えた取り組みを実践することにより、生徒が学校生活に充実感を感じられるようにする ・総合・LHでの取組を中心、生徒のキャリア形成をすすめる ・年間行事計画等学校の取組をHPに掲載し、広報に努める ・学校新聞「星空」の毎月発行、学校メールにより各家庭に郵送し、学校での活動の周知を図る	B	・総合的な探究の時間で地域の人・企業の体験活動や講話を設定し、地域で学ぶ人材育成を進めている ・年間行事計画をHPに掲載し、広報している ・学校新聞を毎月発行し、生徒・保護者に加え、土佐市役所・いの町・土佐市教育研究所に配布し、学校での活動を広報している	B	・総合・LHの振り返りで、「授業が楽しいと感じた」、「知識や技術が身についた」、「進路を考える参考となった」と回答する生徒が91%。 ・今年度希望する生徒の就職率75%達成。 ・星空の毎月発行、学校メールによる学校の活動連絡をおこなった。
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○現状課題 ・ハラスメントに関する理解の徹底 ・法令順守の意識喚起 ○校内研修の実施回数 5回 ○不祥事防止委員会の実施回数 5回	・年度当初に不祥事防止に関する研修を行い、教職員の意識を喚起する ・不祥事防止委員会を設置し、年間5回委員会実施する ・不祥事防止に関する校内研修を年間5回以上実施する	B	・不祥事防止研修2回実施 ・不祥事防止動画による自主研修 ・不祥事防止について、各教員に面談実施 ・不祥事防止委員会3回実施 ・打ち合わせ会で不祥事や服務に関する注意	A	ハラスメントに関する校内研修5回 不祥事防止委員会5回実施 その他、不祥事に関する注意等適宜行った。
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○教職員の心身の健康に留意した働きやすい職場環境作り ○生徒の登校しない時期の年休・特休の取得率向上 ○ICTを活用した業務改善	○有給休暇の取得奨励 ・年休や夏期休暇の取得奨励 ○月45時間を超える時間外勤務者0名 ○ICTを活用した業務改善	・長期休業期間等での有給休暇の有効活用等を奨励する ・時間外勤務が増えてきている職員には、事前にアドバイスをする ・ICTを活用してアンケートの実施・集計や、資料の共有によるペーパーレス化をすすめる	A	・有給休暇の有効活用ができる ・月45時間を超える時間外勤務者0名 ・ICTを活用した業務改善も進んでおり、当初の目標は達成しているが、教員により活用頻度に差がある。	A	引き続き、有給休暇の取得奨励、時間外勤務者0名、業務改善に努めていく。